

探究ワーク データから読み解く問い

指導案・生徒用ワークシート(25 分)

探究ワーク:データから読み解く問い

前のスライドで提示した世論調査の結果について、以下の問いをもとに考えてみましょう。これらの問いを通じて、データから読み取れる背景や意味を深く考察することができます。

1

全国では「不平等だと思う」と「やむを得ない」との差は5ポイントですが、沖縄では31ポイントの差があります。この点から考えられることを整理しましょう。

2

「やむを得ない」と回答した沖縄県民が30パーセントいることを、どのように捉えますか。

3

「答えたくない・わからない」の割合が、全国では高く、沖縄では低いのはなぜだと考えますか。

全国と沖縄の回答の違いから、その背景にある生活や経験、人々の思いについて考え、現地で確かめたい問いにつなげる。

総集編

探究ワーク:データから読み解く問い

学習指導案 中学生・高校生対象 25 分 A4 2 枚

全国と沖縄の回答を比較し、数値の違いを根拠に背景を推察する。3問すべてを考え、対話を通して見方を広げ、現地で確かめたい問いを持つ。

1 本時の目標と準備

①数値や割合の差を正確に読み取る。②生活・歴史・立場など複数の視点から背景を考える。③事実と推察を分け、他者の見方を取り入れて自分の考えを書く。

準備:提供スライド、ワークシート1枚、筆記用具。総集編の映像視聴は授業前に別途行う。25 分は探究ワークの時間とし、4人程度のグループをつくる。

2 本時の展開 25 分

時間	学習活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	学習の狙い・評価
5 分	資料確認と個人メモ グラフの凡例と数値を確認し、最初の第1段階に、3問に関係する事実をメモする。	割合の差はポイントで表すと説明する。 発問①「全国と沖縄で、どの数値が違いますか」 発問②「2つの回答の差は何ポイントですか」 声かけ「まずグラフから確かめられることを書こう」	狙い:比較の根拠を持つ。 評価:数値と比較対象を正確に示せるか。
8 分	グループで背景を考える 3問を順に話し合い、最初の第2段階に、問番号を添えて理由の候補をメモする。	3問を順に、1問約2分ずつ話し合う。各自が理由を伝え、友達の見方を聞く。残り2分で最初と異なる理由も探す。考えが止まった班には「生活との近さ」「仕事」「情報」などのヒントを一つ示し、その視点から理由を考えるよう促す。 発問①「日々の生活との関わりで、何が違いそうですか」 発問②「ほかに説明できる背景はありますか」 声かけ「みんなの考えを一つにそろえなくてよいよ」	狙い:複数の背景や思いを考える。 評価:事実と推察を分けて対話できるか。
7 分	各自で文章化 3問の解答欄に、根拠と背景をつないで自分の考えを書く。	3問に約2分ずつ使い、残り1分で読み直す。 発問①「どの数値を根拠にしましたか」 発問②「その理由を、何で確かめられますか」 声かけ「『～から、～の可能性はある』とつなげよう」	狙い:根拠のある説明をつくる。 評価:数値・理由・留保を示しているか。
5 分	再共有と現地の問い 3分で考えを共有・加筆し、2分で問いと確認方法を書く。	考えの変化や新たな視点に注目させる。 発問①「友達の考えから何を加えましたか」 発問②「現地のどこで、何を確かめたいですか」 声かけ「まだ分からないことを問いにして残そう」	狙い:考えを更新し現地へつなぐ。 評価:加筆と問い・確認方法があるか。

指導上の留意点 3 ポイント

①「やむを得ない」を賛成・歓迎と同一視しない。②全国・沖縄の人々を一括りにせず、地域内にも異なる経験や立場があることを確認する。③感情や回答理由は数値だけで断定せず、確かめる必要のある推察として扱う。

到達のイメージ

全国と沖縄の数値の違いを根拠に、生活や経験、立場など複数の背景を推察し、共有した見方を加えて自分の考えを説明できる。さらに、現地で確かめたい問いと確認方法を示す。

データから背景を考える授業の支援

3 課題と発問のヒント

ヒントは模範解答ではなく、考察の入口として必要な部分だけ示す。生徒が挙げた背景を、数値から分かることと、資料で確かめる必要があることに分ける。

問1 全国と沖縄の回答の差

問い: 全国では「不平等だと思う」と「やむを得ない」の差が5ポイントですが、沖縄では31ポイントです。この点から考えられることを整理しましょう。

ヒント: 基地との距離、騒音や事故への不安、家族の経験、得られる情報など、日常との関わりを考える。全国では $40 - 35 = 5$ 、沖縄では $61 - 30 = 31$ 。差の大きさは読み取れるが、理由はグラフだけでは決められない。

問2 沖縄の「やむを得ない」という回答

問い: 「やむを得ない」と回答した沖縄県民が30%いることを、どのように捉えますか。

ヒント: 基地関連の仕事や生活、長く続く状況を変える難しさ、安全保障への考えなど、複数の背景を考える。不平等だと感じながら、現状では避けにくいと考える人もいるかもしれない。ただし、この調査だけで同じ人の感情や回答理由は特定できない。

問3 「答えたくない・わからない」の割合

問い: 「答えたくない・わからない」の割合が、全国では高く、沖縄では低いのはなぜだと考えますか。

ヒント: 情報量、生活との近さ、関心、意見を表明しにくい事情などを考える。「答えたくない」と「わからない」は異なる理由であり、一つの区分では内訳を判断できない。全国25%・沖縄9%という差を、無関心だけで説明しない。

4 学級に応じた進め方

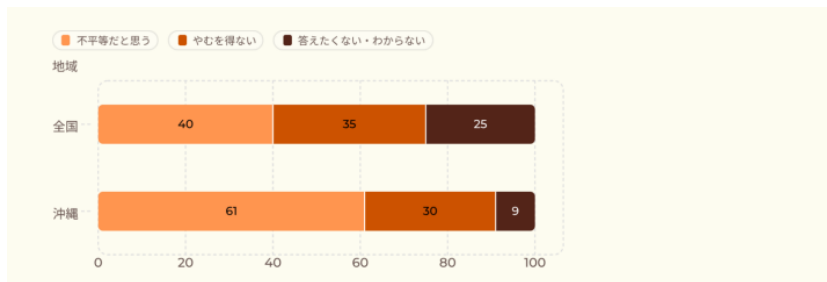
プラン	進め方と時間配分 合計 25 分	特徴と支援のポイント
1 協働型	資料確認・個人メモ5分 → 対話8分 各自で文章化7分 → 再共有・問い5分	導入期向け。数値を確認してから話し合う。教員はヒントを一つずつ示し、全員が自分の言葉で書けるよう促す。
2 併用型	資料確認5分 → 個人で整理7分 グループ共有8分 → 加筆・問い5分	先に自分の考えを持ち、友達の考えと比べる。初めのメモを残し、追加した理由や視点が分かるようにする。
3 自立型	資料確認5分 → 個人で文章化7分 文章を比較8分 → 書き直し・問い5分	探究に慣れた学級向け。根拠・理由・断定の有無を互いに確認し、説明を見直す。結論の一致は求めない。

5 評価と現地学習への接続

見取る点: ①数値を根拠にする。②複数の背景を考え、断定を避ける。③共有で得た視点を加え、問いと確認方法を示す。政治的な立場や感情の強さは評価しない。

現地では、基地周辺の街並み、資料館の展示、住民の話などを手がかりに、生活と基地の関係を確かめる。住民全体の意見を一人の語り手に代表させず、話せる範囲を尊重する。事後は自分の推察を見直す。

資料の扱い: 提供された3枚のスライドを使用。授業前に元の調査の出典・実施年・設問・対象を確認し、数値の意味と調査の限界を説明する。



数値の単位: % 割合の差は「ポイント」で表します。25 分で3問すべてを考えよう。

第 1 段階 データから分かることを整理しよう

3問に関係する数値や差をメモしよう。問番号を添えると整理しやすくなります。

第 2 段階 背景として考えられることを整理しよう

生活との近さ、仕事、経験、情報などから、理由の候補をメモしよう。問番号を添えよう。

ここからは、数値と理由をつないで自分の考えを書こう。友達の見方も加え、推察は断定しない。

問 1 全国と沖縄の回答の差

全国では「不公平だと思う」と「やむを得ない」の差が5ポイントですが、沖縄では 31 ポイントです。この点から考えられることを整理しましょう。

問 2 沖縄の「やむを得ない」という回答

「やむを得ない」と回答した沖縄県民が 30%いることを、どのように捉えますか。

問 3 「答えたくない・わからない」の割合

「答えたくない・わからない」の割合が、全国では高く、沖縄では低いのはなぜだと考えますか。

現地で確かめたい問いと確かめ方

どこで、何を見たり聞いたりすると確かめられそうですか。